



発行
日本共産党
春日部市委員会
春日部市粕壁東
6丁目7-12
電話 748-5159
FAX 748-5179

高齢者の人権と尊厳を 守るための緊急提言を公表

日本共産党は、10月10日「日本共産党の躍進で、自民党政治のゆがみを正す改革を」と題した政策を発表しました。日本共産党は、財界・大企業の利益最優先、日米軍事同盟を絶対視するアメリカ言いの政治のゆがみを正すために全力を尽くします。今回発表した政策のうち「高齢者の人権を守るための緊急提言」を紹介します。

物価高騰にふさわしい
年金引き上げ

●物価高騰にふさわしい年金に引き上げます

―「マクロ経済スライド」など年金を実質低減させる仕組みを凍結・撤廃し、年金を物価の値上がりや賃金の上昇に追いつかせる年金の引き上げをおこないます

―年金積立金の異常なため込みをやめ、計画的に給付の維持・拡充に充てていきます

―高額所得者に対する保険料の負担優遇を見直し、現役労働者の賃金・待遇の抜本的改善を進めるなど、年金の保険料収入と加入者を増やす対策

をすすめます

医療・介護の負担軽減 介護職員の賃金引上げ

●介護への国の支出を増やし、介護の基盤崩壊を打開する緊急対策を実施します

―介護保険制度への国庫負担を10%増やし、公的助成で賃上げを進め、介護職員の賃金を全産業平均並みに引き上げていきます

―施設職員の長時間・過密労働や「ワンオペ夜勤」の解消に向け、配置基準の見直しや報酬加算・公的補助をおこないます

―介護事業所の人件費を圧迫している人材紹介業者への手数料に上限を設けるなど、人件費が確実に職員にまわるようにします

―今年度に政府が引き下げた訪問介護の基本報酬を早急に元の水準に戻します。削減さ

れてきた介護事業所の経営の継続に向けた支援を行います

―介護の事業が消失の危機にある自治体に対して、国費で財政支援を行う仕組みを緊急に作り、民間任せでは事業が成り立たない事業所・施設の経営を公費で支えます

●高齢者いじめの医療費負担増をやめさせ、負担の軽減をすすめます

―高齢者に際限なく負担増を押し付ける医療改革をやめさせ、70歳以上の窓口負担を一律1割に引き下げ、軽減・無料化を進めます

―高齢者に差別と負担増を押し付ける後期高齢者医療制度を廃止します

●マイナ保険証の強制をやめ、健康保険証を存続させます

●高齢者虐待や社会的孤立など、介護サービスでは対応できない事案に対応する自治体の福祉（措置）の機能と体制を強化します

＜生活相談は日本共産党へ＞

並木としえTEL737-4576 大野とし子TEL746-6136 今尾やすのりTEL761-3676 木下みえ子TEL734-4677

日本共産党市議団ホームページ <https://www.jcp-kasukabe.jp/>



被爆者の皆さんとの出会いに生かされて

第19回 かすかべ平和フェスティバル開催

10月12日、粕壁市民センター(中央公民館)で、第19回かすかべ平和フェスティバルが開催されました。今年も、実行委員会と春日部市の共催で、共栄大学や松実学園の皆さんも参加し、手作り感満載のフェスティバルとなりました。

43年前親と子の原爆展から始まりました

実行委員長から、「昨日、長い間、被爆者としての苦しみを抱え、核廃絶を訴え続けている日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞したことは大変うれしいことです。この平和フェスティバルも43年前『親と子の原

爆展』として始まり、今回は高校生の平和アンケートにも取り組みました。若者とともに学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います」と挨拶がありました。

市長より、「春日部市も平成21年『非核平和都市宣言』をしています。平和への思いを一つにしていきましよう」と挨拶がありました。

命を大切に、何があっても生きよう

斉藤とも子さんのお話の要旨は次の通りです。

被爆者との出会いで、自分が生かされてきたことを思い、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは

本当に嬉しいことだと満面の笑みでお話しました。

被爆者との出会いのきっかけは、井上ひさし作の広島原爆投下後の父の亡霊と暮らす娘を描いた「父と暮らせば」の舞台出演の依頼があった時です。少しでも被爆者の思いが感じられればと広島を訪れた時、食堂でひとりの被爆者と偶然出会いました。

斉藤さんは、被爆者という暗いイメージをもっていましたが、その方の「被爆したことで多くの人に助けてもらったことをよかったです」と思っているのよ」との言葉に、明るく生きていくことに驚きました。

斉藤さんは、その方に紹介された被爆者の山崎久子さんから、生まれた時から18歳で被爆した時の様子、その後どのように生きたかなどを聞き取り、論文にし

ました。それを山崎さんが読んで「私もがんばって生きてきたんだねえ」と喜んでくれた姿に、それまで自分に自信がもてなかった斉藤さんは、自分にも人のためにできることがあったんだ。命を大切に何があっても生きていこうと思った」と山崎さんとの出会いを語りました。

最後に、戦争は始まったら止めることは難しい。身近な助け合いを大切に、自分の感性で考え、みんなと平和をつくっていきましよう」と結びました。

400名を超える高校生アンケートの中で、「戦争や紛争に関心があるか」との問いに、50%を超える人があると答え、日本が巻き込まれると感じている人が3分の1いたことに、共に平和について考えていく事の大切さを痛感しました。



市立医療センター ㊧735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外科系 小児救急電話相談 #7119
 10/20(日)黄川田医院(内科系)小淵690-2 TEL 752-8872 岩本小児科医院(小児科系)谷原3-12-1 TEL 795-8796 さくら皮フ科(外科系)中央1-1-1 春日部ビル4階 TEL 760-4112
 10/27(日)有賀内科クリニック(内科系)中央1-4-6 TEL 760-2703 竹田クリニック(小児科系)大枝89 TEL 735-4501 佐藤整形外科(外科系)大場1385-3 TEL 731-4550